

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	スポーツエクササイズⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	スポーツエクササイズⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	日本文化に触れ、各エクササイズの知識を身につける。				
到達目標	エクササイズに紐づいた日本文化を述べるができる。 各エクササイズを実践することができる。				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	スポーツエクササイズⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	平井 公仁加		実務経験	○	
実務内容	フィットネスクラブでスイミングコーチ、フィットネストレーナー(7年) 幼児から高齢者指導と養成コース講師フリーインストラクター(20年以上)				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元		内容		
1	オリエンテーション		授業の流れ、到達目標について		
2	ラジオ体操		ラジオ体操の実施		
3	相撲エクササイズ		四股踏み、股関節周りのセルフストレッチ、パートナーストレッチを実施		
4	盆踊りエクササイズ		夏祭りの盆踊りをアレンジした有酸素運動		
5	禅ストレッチ		座禅の呼吸法を取り入れたストレッチ		
6	ヨガ		ヨガの簡単なポーズを実施		
7	介護エクササイズ		介護現場で行われているエクササイズを実施		
8	エクササイズ①		スタジオで各レジスタンストレーニングを実施		

9	エクササイズ②	スタジオで各レジスタンストレーニングを実施
10	トレーニング①	軽量のダンベル・スマートバーで筋力向上エクササイズを実施
11	トレーニング②	軽量のダンベル・スマートバーで筋力向上エクササイズを実施
12	体育祭競技の理解実践	ルールの理解と実践
13	体育祭競技の理解実践	ルールの理解と実践
14	テスト	テストの実施
15	総まとめ	テスト返却 前期の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	スポーツエクササイズⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	スポーツエクササイズⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	1	30
使用教材	なし			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	日本文化に触れ、各エクササイズの知識を身につける。 スポーツエクササイズⅠで学んだ内容の 発展・応用を実施する。				
到達目標	エクササイズに紐づいた日本文化を述べるができる。 各エクササイズを実践することができる。 「動きの質」「継続的運動」「協働・表現」				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	スポーツエクササイズⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	平井 公仁加			実務経験	○
実務内容	フィットネスクラブでスイミングコーチ、フィットネストレーナー(7年) 幼児から高齢者指導と養成コース講師フリーインストラクター(20年以上)				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について、前期の復習
2	ラジオ体操（応用）	ラジオ体操第一・第二の応用実践
3	相撲エクササイズ（応用）	四股・体幹強化エクササイズ
4	日本の伝統リズム運動	盆踊りリズムの応用エクササイズ
5	呼吸とストレッチ	禅・呼吸法を取り入れたストレッチ
6	ヨガ（発展）	ヨガポーズの連続動作
7	介護・生活動作エクササイズ	日常生活動作を意識した運動
8	レジスタンストレーニング①	自体重トレーニング（全身）

9	レジスタンストレーニング②	自体重トレーニング（下半身・体幹）
10	器具を使った筋力トレーニング①	軽量器具を用いたトレーニング
11	器具を使った筋力トレーニング②	全身を使った複合運動
12	集団スポーツエクササイズ①	体育祭・集団競技を取り入れた運動
13	集団スポーツエクササイズ②	協働型エクササイズ
14	テスト	テストの実施
15	総まとめ	テスト返却 後期の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ホスピタリティサービスⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ホスピタリティサービスⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	3	90
使用教材	なし			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	日本におけるホスピタリティの基本的な考え方を理解し、学校生活および将来の就職において必要となる態度・行動・言葉遣いを身に付ける。				
到達目標	あいさつ・身だしなみ・時間厳守など基本的な社会マナーを実践できる。また、報告・連絡・相談を適切なタイミングで行うことができる。他者と関わりながら、自身のことをコントロールする力を身に付ける。				
評価基準	テスト：30％ 授業態度：30％ 提出物：40％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	森 依子			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的・進め方・授業内ルールを理解する
2	授業中・トイレでのマナー	授業中のマナー・トイレのマナーを理解する
3	他者理解・自分の役割認識	他者を理解する、クラスの中での自分の役割を認識する
4	職員室への入室マナー	職員室への入室マナーを理解する
5	エレベーターの乗り方	ビジネスマナーとしてのエレベーターの乗り方を理解する
6	専門学校での学び方	専門学校での学び方と日本語学校での学び方の違いを理解する
7	報告・連絡・相談①	学校生活に必要な報告・連絡・相談を学ぶ
8	報告・連絡・相談②	仕事で使う報告・連絡・相談を学ぶ

9	日本語習得についての理解①	自身の現在の日本語能力を振り返り、課題・今後の目標を定める
10	日本語習得についての理解②	自身の現在の日本語能力を振り返り、課題・今後の目標を定める
11	特定技能についての理解①	特定技能の種類を知り、それぞれの職業に必要なホスピタリティーを考える
12	特定技能についての理解②	特定技能の種類を知り、それぞれの職業に必要なホスピタリティーを考える
13	多文化理解①	自分の国の文化について他者に正確に伝える
14	多文化理解②	自分の国以外の文化について学ぶ
15	多文化理解③	文化の違いを認識して、互いに尊重することを学ぶ
16	電話対応	ビジネスマナーとしての電話のかけ方・受け方を学ぶ
17	日本語習得についての理解③	自身の現在の日本語能力を振り返り、課題・今後の目標を定める
18	日本語習得についての理解④	自身の現在の日本語能力を振り返り、課題・今後の目標を定める
19	特定技能についての理解③	特定技能の種類を知り、それぞれの職業に必要なホスピタリティーを考える
20	特定技能についての理解④	特定技能の種類を知り、それぞれの職業に必要なホスピタリティーを考える
21	適切な言葉選び	相手の状況に応じた声掛けを学ぶ
22	適切な言葉選び	相手の状況に応じた声掛けを学ぶ
23	小テスト	小テストで自身の理解度を測る
24	公共マナー①	自身が行きたい場所へ行ける公共交通機関について調べ、出発時間を逆算することを学ぶ
25	公共マナー②	公共交通機関でのマナーを学ぶ
26	公共マナー③	公共交通機関でのマナーを実践する
27	チームワーク①	チームで1つのものを作りだすことを実践する
28	チームワーク②	チームで1つのものを作りだすことを実践する
29	チームワーク③	チームで1つのものを作りだすことを実践する
30	集団行動①	集団行動で大切なことを理解する
31	集団行動②	集団行動を実践して体得する
32	集団行動③	集団行動を実践して体得する
33	日本文化①	日本の文化を学び日本のホスピタリティーを考える

34	日本文化②	日本の文化を学び日本のホスピタリティーを考える
35	日本文化③	日本の文化を学び日本のホスピタリティーを考える
36	お礼の伝え方①	他者の良い部分を探し言葉で伝える
37	お礼の伝え方②	お世話になった方へ手紙で感謝を伝える方法を学ぶ
38	手紙の出し方	日本での手紙の出し方を学ぶ
39	適切な身だしなみ	就職活動における適切な身だしなみを学ぶ
40	自己紹介	就職活動で自身のことを相手に伝えるように紹介できるように練習する
41	自己PR	自分の強みを理解して相手に伝えるように伝える練習をする
42	面接作法	面接会場へ入るときのマナーを学ぶ
43	身だしなみチェック①	スーツの着こなしを学ぶ
44	身だしなみチェック②	スーツの着こなしを学ぶ
45	面接練習会	実際に面接練習を行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	施設衛生管理Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	施設衛生管理Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	2	30
使用教材	特定技能1号 外食業技能測定試験 学習用テキスト 【ビルメンテナンス】			出版社	公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	日本で働く上で必要とされる衛生管理について理解し、ビルメンテナンス技能測定試験の合格を目指す。		
到達目標	ビルメンテナンス業務に関する基本的な用語・作業内容を理解できる。 清掃作業(床・トイレ・ガラス等)の基本手順を説明できる。 安全管理の重要性を理解し、適切に行動できる。		
評価基準	テスト：40％　小テスト：30％　授業態度：30％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	特定技能1号 ビルメンテナンス技能測定試験		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	秋葉　優美	実務経験	○
実務内容	大手旅行会社 に総合職にて、海外での添乗業務等に従事		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的・進め方・授業内ルールの説明、特定技能1号ビルメンテナンス技能測定試験の概要を学ぶ
2	出勤・休憩・退勤・身だしなみについて	出勤・休憩・退勤のルールを理解する
3	日常清掃と定期清掃 ビルクリーニングの5原則	日常清掃と定期清掃の違いを理解する ビルクリーニングの5原則を覚える
4	あいさつ用語・職場でのルール	あいさつでよく使う言葉を理解し正しい発音で話す練習をする 職場の人間関係・報連相・クレーム・ミーティングの知識を理解する
5	資器材の搬入・安全の確保	清掃する場所によって適した清掃時間を理解する フロアサインを知る
6	汚れの種類と大きさ	汚れ(ほこり)の種類と大きさの違いについて理解する
7	ほうき・ちりとり・クロス・モップ	器材の種類と適した汚れについて理解する
8	掃き掃除	掃き掃除の順路を覚え実践する(フロア・階段)

9	拭き掃除	ダストクロス型モップ・モップを使う拭き掃除の方法を理解する ラージの水洗い方法を学ぶ
10	掃除機の使い方	掃除の種類と使い方を理解する
11	タオルのたたみ方・洗いか ガラス清掃	タオルのたたみ方・洗いか・絞り方を練習する ガラス清掃の方法を理解する
12	トイレ清掃	トイレ清掃で使用する資器材を理解する トイレ清掃の作業の順番を学ぶ
13	廃棄物の処理・衛生管理	ごみの分別・正しい手洗い方法を学ぶ
14	清掃作業の安全と衛生	安全のため・労働衛生のために守ることを理解する ビルクリーニングをの危険な箇所を把握する
15	まとめテスト	第1章から第2章までのまとめテストを受け自身の理解を把握する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	施設衛生管理Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	施設衛生管理Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	2	30
使用教材	特定技能1号 外食業技能測定試験 学習用テキスト 【ビルメンテナンス】			出版社	一般社団法人 日本フードサービス協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	日本で働く上で必要とされる衛生管理について理解し、ビルメンテナンス技能測定試験の合格を目指す。		
到達目標	模擬試験を繰り返し、合格点数が取れる。		
評価基準	課題80% テスト20%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	特定技能1号 ビルメンテナンス技能測定試験		
関連科目	施設衛生管理Ⅰ		
備考	原則、この科目はオンデマンド授業形式にて実施する。		
担当教員	秋葉 優美	実務経験	○
実務内容	大手旅行会社 に総合職にて、海外での添乗業務等に従事		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	オンデマンド授業の受け方、課題の提出方法を理解する
2	特定技能試験模擬試験①	特定技能試験の模擬試験を受け、自身の理解度を把握する
3	特定技能試験模擬試験②	特定技能試験の模擬試験を受け、自身の理解度を把握する
4	特定技能試験模擬試験③	特定技能試験の模擬試験を受け、自身の理解度を把握する
5	特定技能試験模擬試験④	特定技能試験の模擬試験を受け、自身の理解度を把握する
6	特定技能試験模擬試験⑤	特定技能試験の模擬試験を受け、自身の理解度を把握する
7	特定技能試験模擬試験⑥	特定技能試験の模擬試験を受け、自身の理解度を把握する

8	特定技能試験模擬試験⑦	特定技能試験の模擬試験を受け、自身の理解度を把握する
9	特定技能試験模擬試験⑧	特定技能試験の模擬試験を受け、自身の理解度を把握する
10	特定技能試験模擬試験⑨	特定技能試験の模擬試験を受け、自身の理解度を把握する
11	特定技能試験模擬試験⑩	特定技能試験の模擬試験を受け、自身の理解度を把握する
12	特定技能試験模擬試験⑪	特定技能試験の模擬試験を受け、自身の理解度を把握する
13	特定技能試験模擬試験⑫	特定技能試験の模擬試験を受け、自身の理解度を把握する
14	特定技能試験模擬試験⑬	特定技能試験の模擬試験を受け、自身の理解度を把握する
15	特定技能試験模擬試験⑭	特定技能試験の模擬試験を受け、自身の理解度を把握する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	サービスマネジメントⅠ		
必修選択	必修	(学則表記)	サービスマネジメントⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	2	30
使用教材	いろいろ 初級 1			出版社	独立行政法人国際交流基金日本語国際センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	日本語の基本的な語彙・文法・表現を習得し、日常生活の基本場面で「理解・応答」ができる力を養う。				
到達目標	ゆっくり話される日常会話を聞いて、内容の大意が理解できる。 短い文章を読み、必要な情報を取り出せる。 基本的な文型を使って、簡単な受け答えができる。				
評価基準	テスト：40％ 小テスト：30％ 授業態度：30％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	JFT basic				
関連科目	サービスマネジメントⅡ・ビジネスライセンス対策Ⅰ・ビジネスライセンス対策Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	占部 成子			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的・進め方・授業内ルールの説明、JFT basicの試験概要を学ぶ
2	第1課「レストランで働いています」	「目上」と「目下」の関係を大切にされた会話を理解する。「お元気ですか？」のあいさつを使えるようになる 提示された漢字・文法を理解する
3	第2課「ゲームをするのが好きです」	「目上」と「目下」の関係を大切にされた会話を理解する。「お元気ですか？」のあいさつを使えるようになる 提示された漢字・文法を理解する
4	小テスト①	第1課から第2課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する
5	第3課「冬はとても寒くなります」	日本の気候に関する会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
6	第4課「昨日はすごい雨でしたね」	日本の気候に関する会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
7	小テスト②	第3課から第4課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する
8	第5課「とてもにぎやかで便利です」	町にある施設・場所で必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する

9	第6課「郵便局はどう行ったらいいですか？」	町にある施設・場所で必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
10	小テスト③	第5課から第6課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する
11	第7課「道に迷ってちょっと遅れます」	知人と一緒に出掛けるシチュエーションで必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
12	第8課「野球、したことありますか？」	知人と一緒に出掛けるシチュエーションで必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
13	小テスト④	第7課から第8課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する
14	第9課「読み方を教えてもらえませんか？」	日本語学習をする場面で必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
15	まとめテスト	テストを実施する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	サービスマネジメントⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	サービスマネジメントⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	2	30
使用教材	いろいろ 初級 1			出版社	独立行政法人国際交流基金日本語国際センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	日本語の基本的な語彙・文法・表現を習得し、日常生活の基本場面で「理解・応答」ができる力を養う。				
到達目標	ゆっくり話される日常会話を聞いて、内容の大意が理解できる。 短い文章を読み、必要な情報を取り出せる。 基本的な文型を使って、簡単な受け答えができる。				
評価基準	テスト：40％ 小テスト：30％ 授業態度：30％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	JFT basic				
関連科目	サービスマネジメントⅠ・ビジネスライセンス対策Ⅰ・ビジネスライセンス対策Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	占部 成子			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的・進め方・授業内ルールの説明、JFT basicの試験概要を学ぶ
2	第10課「日本語教室に参加したいんですが」	日本語学習をする場面で必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
3	第11課「肉と野菜は私が買って行きます」	料理に関する場面で必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
4	小テスト①	第10課から第11課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する
5	第12課「お弁当、おいしそうですね」	料理に関する場面で必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
6	第13課「あと10分ぐらいで終わりそうです」	仕事の連絡に必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
7	小テスト②	第12課から第13課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する
8	第14課「休みを取ってもいいでしょうか」	仕事の連絡に必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する

9	第15課「熱があつてのどが痛いです」	健康な生活に必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
10	小テスト③	第14課から第15課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する
11	第16課「食べ過ぎないようにしています」	健康な生活に必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
12	第17課「兄がくれたお守りです」	人間関係構築に必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
13	小テスト④	第16課から第17課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する
14	第18課「何かプレゼントをあげませんか」	人間関係構築に必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
15	まとめテスト	第10課から第18課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ホテルマネジメントⅠ		
必修選択	必修	(学則表記)	ホテルマネジメントⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	2	30
使用教材	特定技能1号評価試験宿泊分野学習用テキスト			出版社	全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会

科目の基礎情報②

授業のねらい	宿泊業で働くために必要な知識・仕事の流れ・専門用語を学び、ホテルや旅館で働くときに使う接客の日本語や仕事のマナーを身に付ける。		
到達目標	特定技能「宿泊業」試験の問題文を読み、内容を理解して答えることができる。 宿泊業の基本的な仕事内容と流れを説明できる。 宿泊施設で働くときに必要な基本的な接客日本語を使うことができる。 安全・衛生・マナーなどの基本的ルールを理解して行動できる。		
評価基準	テスト：40％　小テスト：30％　発表：30％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	特定技能試験「宿泊業」		
関連科目	ホテルマネジメントⅡ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	中村　福美子	実務経験	○
実務内容	グローバルな人材が集まるホテル・民泊をプロデュースに従事		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について理解する
2	フロントでの予約管理①	フロント業務について理解する 予約の問い合わせへの対応を理解する
3	フロントでの予約管理②	お客様情報の確認・予約のキャンセル・調整方法を学ぶ
4	チェックイン業務①	身だしなみ・姿勢・言葉遣いについて理解する
5	チェックイン業務②	予約内容の確認・ルームキーのお渡し、館内・設備などの説明
6	お客様対応①	館内で行う電話対応・フロントが把握しておくべき他の業務について学ぶ
7	お客様対応②	客室での対応方法を学ぶ

8	チェックアウト・会計業務	館内で利用したサービス・飲料などの確認・会計について学ぶ
9	小テスト	小テストを受け、自身の理解度を把握する
10	企画業務	ホテル業界での企画業務について学ぶ
11	広報業務	自社のホームページやSNSの運用方法について学ぶ
12	接客①	あいさつ・基本姿勢とお辞儀を練習する
13	接客②	接客の際の話し方・具体的な接客方法を学ぶ
14	接客③	電話対応・クレーム対応について学ぶ
15	まとめテスト	まとめテストを受け、自身の理解度を把握する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ホテルマネジメントⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	ホテルマネジメントⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	2	30
使用教材	特定技能1号評価試験宿泊分野学習用テキスト			出版社	全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会

科目の基礎情報②

授業のねらい	宿泊業で働くために必要な知識・仕事の流れ・専門用語を学び、ホテルや旅館で働くときに使う接客の日本語や仕事のマナーを身に付ける。		
到達目標	特定技能「宿泊業」試験の問題文を読み、内容を理解して答えることができる。 宿泊業の基本的な仕事内容と流れを説明できる。 宿泊施設で働くときに必要な基本的な接客日本語を使うことができる。 安全・衛生・マナーなどの基本的ルールを理解して行動できる。		
評価基準	テスト：40％　小テスト：30％　発表：30％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	特定技能試験「宿泊業」		
関連科目	ホテルマネジメントⅠ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	中村　福美子	実務経験	○
実務内容	グローバルな人材が集まるホテル・民泊をプロデュースに従事		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について理解する
2	レストランサービス①	サービスの基本動作・服装について学ぶ
3	レストランサービス②	食事・ドリンクの提供について学ぶ
4	レストランサービス③	和食・洋食のルールやマナーについて理解し、実践する
5	レストランサービス④	食物アレルギーについて理解する
6	衛生対策	レストランサービスにおける安全衛生の管理方法について理解する
7	専門用語	レストランサービスにおける専門用語を学ぶ
8	小テスト	小テストを受け、自身の理解度を把握する

9	安全衛生管理①	宿泊施設におけるリスクの理解と回避について学ぶ
10	安全衛生管理②	お客様の安全確保について・施設管理・環境対応について学ぶ
11	模擬試験①	模擬試験を受け自身の実力を測る
12	模擬試験②	模擬試験を受け自身の実力を測る
13	模擬試験③	模擬試験を受け自身の実力を測る
14	模擬試験④	模擬試験を受け自身の実力を測る
15	振り返り・まとめ	振り返り・授業のまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	レジャー産業論Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	レジャー産業論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	1	30
使用教材	なし			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	日本の観光・スポーツ・エンターテインメント・余暇などの「レジャー産業」がどのように日本人の生活や地域社会に関わっているのかを学ぶ。				
到達目標	日本の観光・スポーツ・エンターテインメントなどのレジャー産業について基礎的な知識を身に付け、自分の体験や意見を日本語で簡単に表現できるようになる。				
評価基準	テスト：40％　小テスト：30％　発表：30％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	レジャー産業論Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小山　公彦			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション・レジャーとは	授業の目的、進め方、評価方法について 自分の余暇を発表する
2	レジャー産業の種類	観光・テーマパーク・エンタメ・アニメ・スポーツ・温泉など多様なレジャーの種類を学ぶ
3	自国のレジャー産業について	自身の国のレジャー産業について紹介する
4	日本の代表的な観光地	日本の有名スポットを学ぶ
5	観光と地域のつながり	祭り・ご当地グルメ・伝統文化と観光の関係を学ぶ
6	テーマパークとエンタメ	USJ・ディズニーランドなどの施設と雇用について学ぶ
7	アニメ・マンガと観光	聖地巡礼・アニメイベントの集客力を学ぶ
8	個人発表	学んだレジャーの中から自身の日本での体験を発表する

9	スポーツとレジャー	日本の野球・サッカーについて学び、日本のオリンピックについて学ぶ
10	自然とアウトドア	有名な温泉地・キャンプ・グランピング・登山・川について学ぶ
11	外国人観光客(インバウンド)	インバウンド増加の理由、対応策(言語・Wi-Fi・免税)について学ぶ
12	宿泊業と接客サービス	ホテル・旅館・民泊などの種類とマナーについて学ぶ
13	IR(カジノ)とレジャー	IRの定義・日本の現状について学ぶ
14	前期まとめ・テスト	前期のまとめ・テストの実施
15	グループ発表	「行ってみたい日本の観光地」について調査・発表

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	レジャー産業論Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	レジャー産業論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	1	30
使用教材	なし			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	レジャー産業論Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、実際の企業事例やサービス分析を通して、業界の特徴や課題、今後の可能性について理解を深める。				
到達目標	レジャー産業の主要分野について説明できる。 レジャー産業の仕事やサービス内容を理解できる。 消費者ニーズと業界の関係を考えることができる。 グループワークや発表を通して自分の考えを伝えられる。				
評価基準	授業態度：30％ 提出物：30％ 発表：20％ 小テスト20％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	レジャー産業論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小山 公彦			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自分の好きなレジャーについて考える
2	観光産業と地域活性化	行ってみたい観光地を紹介する
3	テーマパーク産業の特徴	人気のテーマパークが「人気」になる理由を考える
4	ホテル・リゾート産業	接客で大切なことを考える
5	スポーツビジネスとレジャー	スポーツイベントについて調べる
6	イベント産業について	留学生と日本人が交流するためのイベントを考える
7	エンターテインメント産業	音楽・映画・ゲームの影響を考える

8	SNSとレジャー産業	消費者に「行きたい」と思わせる発信を考える
9	リピート戦略	「また行きたい」を作る仕組みと戦略を考える
10	レジャー産業を仕事にするには	レジャー産業で外国籍の従業員が活躍できる仕事を考える
11	レジャー企画を作ってみよう①	観光地＋イベントの企画をグループごとに考える
12	レジャー企画を作ってみよう②	観光地＋イベントの企画をグループごとに考える
13	レジャー企画プレゼン大会	自分たちの企画を発表する
14	レジャー産業の未来	これから流行しそうなサービスを考える
15	まとめ	振り返り・まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ビジネス外国語Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネス外国語Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	1	30
使用教材	改訂版 みんなの接客英語			出版社	アルク

科目の基礎情報②

授業のねらい	英語での言語表現を通じて日本語の理解を深める。				
到達目標	アルバイト先で使える英語のレベルまで理解する。				
評価基準	テスト60％ 課題提出・平常点40％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	ビジネス外国語Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	坂田 未央			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章 全業種共通フレーズ1	この講座の目的や到達目標などの共通理解 第1章 来店したお客様を迎える、よく言う一言、聞き取れない・わからない、レジに案内する
2	第1章 全業種共通フレーズ2	会計1 金額を伝える、会計2 支払い方法、会計3 お金を受け取る・渡す
3	第1章 全業種共通フレーズ3	会計4 クレジットカード、会計5 ポイントカード・スタンプカード、会計6 レシート・領収書を発行する
4	第1章 全業種共通フレーズ4	電話対応をする、お客様を見送る、忘れ物の対応をする、営業日・営業時間を伝える
5	第2章 飲食業のフレーズ1	来店したお客様に席を案内する、すぐに案内できない場合
6	第2章 飲食業のフレーズ2	予約の電話を受ける、店のシステムを説明する、お代わり・食べ(飲み)放題の説明をする
7	第2章 飲食業のフレーズ3	注文を受ける、好き・意向を聞く、苦手食材・アレルギーを確認する
8	中間試験	第1講～第7講の復習と中間テスト
9	第2章 飲食業のフレーズ4	おすすめのメニューを案内する、特別な配慮をする、食材・食べ方の説明をする

10	第2章 飲食業のフレーズ5	料理を運ぶ・下げる、問い合わせ・クレームに対応する、お願い・注意をする
11	第2章 飲食業のフレーズ6	事例1 ファストフード店・カフェ、事例2 和食店、事例3 居酒屋、事例4 パー
12	第3章 販売業のフレーズ1	店内のお客様に声を掛ける、お客様の希望を尋ねる、セール・キャンペーンの案内をする
13	第3章 販売業のフレーズ2	特長・お得感をアピールする、褒める、意見・感想を述べる
14	第3章 販売業のフレーズ3	「できない」と言う、注意する、在庫を確認する、取り寄せる、取り置きする、免税品(消費税)を扱う
15	総まとめとテスト	第1講～第14講の復習・テスト

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ビジネス外国語Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネス外国語Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	1	30
使用教材	改訂版 みんなの接客英語			出版社	アスク

科目の基礎情報②

授業のねらい	英語での言語表現を通じて日本語の理解を深める。				
到達目標	アルバイト先で使える英語のレベルまで理解する。				
評価基準	テスト60％ 課題提出・平常点40％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	ビジネス外国語Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	坂田 未央			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第3章 販売業のフレーズ4	値引き交渉に対応、包装方法を尋ねる、持ち帰り時の配慮
2	第3章 販売業のフレーズ5	配送方法を尋ねる、修理・返品について説明する、お待ちいただく
3	第3章 販売業のフレーズ6	事例1 衣料品店、事例2 宝飾品店、特講 サイズについて述べる
4	第3章 販売業のフレーズ7	事例3 スーパー・コンビニ、事例4 家電量販店、事例5 雑貨店・土産物屋、事例6 化粧品店、事例7 空港免税店
5	第4章 宿泊・レジャー・美容業のフレーズ1	あいさつ、チェックイン、フロント、館内案内
6	第4章 宿泊・レジャー・美容業のフレーズ2	食事、電話（予約対応）電話（宿泊客向け）、入浴
7	第4章 宿泊・レジャー・美容業のフレーズ3	清掃、クレーム対応、チェックアウト、写真を撮る
8	中間テスト	第1講～第7講までの内容
9	第4章 宿泊・レジャー・美容業のフレーズ4	事例1 ツアー、事例2 遊園地、事例3 美術館・博物館・劇場

10	第4章 宿泊・レジャー・美容業のフレーズ5	特講 入場料、事例4 エステ・マッサージ店、事例5 美容院
11	第5章 医療業病気・トラブルの際のフレーズ1	咄嗟の対応、病院・クリニック、ドラッグストア
12	第5章 医療業病気・トラブルの際のフレーズ2	迷子・呼び出し、万引き・盗難、診療科、薬の種類、館内呼び出し
13	第6章 道案内のためのフレーズ	建物の中と外、道案内
14	第7章 プラスアルファのフレーズ	飲食店での案内、宿泊施設での案内（チェックインアウト時）、遊園地・美術館・劇場での案内
15	テスト	全内容を網羅した考査

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	国際ビジネスコミュニケーションⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	国際ビジネスコミュニケーションⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	1	30
使用教材	日本語能力試験N3完全攻略テキスト&実践問題集			出版社	ナツメ社

科目の基礎情報②

授業のねらい	ビジネス場面を想定した日本語の文章や会話を通して、情報の要点を正確に理解する力を養う。				
到達目標	基本的なビジネス場面において、簡単なメール、案内、指示、会話を理解し、必要な情報を把握できる。 JLPT N3レベルの日本語の文章や会話を読み、聞いて、内容の要点を理解することができる。				
評価基準	テスト：40％ 小テスト：30％ 授業態度：30％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	日本語能力試験N3				
関連科目	国際ビジネスコミュニケーションⅡ・ビジネススキルⅠ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小金丸 恭子			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 実力判定模試	授業の目的・JLPT N3の構成を理解する 読解・聴解の模試を実施し、実力を確認する
2	短文読解①	短い文章を読んで文章全体の意図を読み取る
3	短文読解②	短い文章を読んで文章全体の意図を読み取る
4	短文読解小テスト	短文読解の小テストを受ける
5	長文読解①	長い文章を読んで内容を理解する
6	長文読解②	長い文章を読んで内容を理解する
7	長文読解小テスト	長文読解の小テストを受ける
8	情報検索	ポスターやチラシなどの情報から必要な情報を探し出す

9	聴解①(課題理解)	2人の会話を聞いて「この後何をするか」「何を選ぶか」などの情報を理解する
10	聴解②(ポイント理解)	会話やスピーチを聞いて理由を選択する
11	聴解③(概要理解)	会話を聞いて全体として言いたいことが何かを理解する
12	聴解④(発話表現1)	イラストを見ながら話を聞いてイラストの人物が言う言葉を考える
13	聴解⑤(発話表現2)	イラストを見ながら話を聞いてイラストの人物が言う言葉を考える
14	聴解⑥(即時応答)	短い発話を聞いてそれに対する日常的に使われる表現で答える
15	まとめテスト	JPLT N3級の過去問にて実力を確認する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	国際ビジネスコミュニケーションⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	国際ビジネスコミュニケーションⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	1	30
使用教材	日本語能力試験N3完全攻略テキスト&実践問題集			出版社	ナツメ社

科目の基礎情報②

授業のねらい	ビジネス場面を想定した日本語の文章や会話を通して、情報の要点を正確に理解する力を養う。				
到達目標	基本的なビジネス場面において、簡単なメール、案内、指示、会話を理解し、必要な情報を把握できる。 JLPT N3レベルの日本語の文章や会話を読み、聞いて、内容の要点を理解することができる。				
評価基準	テスト：40％　小テスト：30％　授業態度：30％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	日本語能力試験N3				
関連科目	国際ビジネスコミュニケーションⅠ・ビジネススキルⅠ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小金丸　恭子			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 実力判定模試	授業の目的・JLPT N3の構成を理解する 読解・聴解の模試を実施し、実力を確認する
2	短文読解①	短い文章を読んで文章全体の意図を読み取る
3	短文読解②	短い文章を読んで文章全体の意図を読み取る
4	短文読解小テスト	短文読解の小テストを受ける
5	長文読解①	長い文章を読んで内容を理解する
6	長文読解②	長い文章を読んで内容を理解する
7	長文読解小テスト	長文読解の小テストを受ける
8	情報検索	ポスターやチラシなどの情報から必要な情報を探し出す

9	聴解①(課題理解)	2人の会話を聞いて「この後何をするか」「何を選ぶか」などの情報を理解する
10	聴解②(ポイント理解)	会話やスピーチを聞いて理由を選択する
11	聴解③(概要理解)	会話を聞いて全体として言いたいことが何かを理解する
12	聴解④(発話表現1)	イラストを見ながら話を聞いてイラストの人物がいう言葉を考える
13	聴解⑤(発話表現2)	イラストを見ながら話を聞いてイラストの人物が言う言葉を考える
14	聴解⑥(即時応答)	短い発話を聞いてそれに対する日常的に使われる表現で答える
15	まとめテスト	JPLT N3級の過去問にて実力を確認する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パソコン演習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	パソコン演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	2	60
使用教材	留学生のためのかんたんWord/Excel/PowerPoint 留学生のためのタイピング練習ワークブック			出版社	技術評論社 カットシステム

科目の基礎情報②

授業のねらい	日本語のタイピング及び、Word/Excel/PowerPointをビジネスシーンで使いこなすための技術を習得する。				
到達目標	日本語能力検定N5レベルの日本語の文章を200字／10分のスピードで入力することができる。 基本的なビジネス文書やデザイン文書を作成することができる。				
評価基準	テスト60％ 課題提出20％ 授業態度20％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	パソコン技能検定 3 級				
関連科目	パソコン演習Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小山 公彦			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	【座学】導入・授業概要/タッチタイピングの基本	授業のねらい、到達目標、成績評価の基準について アルファベット26文字確認、キーボード配列の理解
2	【実技】タッチタイピング練習	タイピングの準備、ホームポジション練習、中段キー入力練習
3	【座学】ローマ字入力の基本	母音 (a/i/u/e/o) の仕組み、ローマ字入力の仕組み、日本語入力とローマ字の関係
4	【実技】ローマ字入力①	母音入力練習、簡単な単語入力、日本語変換
5	【座学】ローマ字入力（子音①）	KSTN行、ローマ字表の理解
6	【実技】ローマ字入力②	単語入力練習、清音入力
7	【座学】ローマ字入力（子音②）	HMYRW行、ローマ字表完成
8	【実技】ローマ字入力③	タイピング練習、文章入力練習 単語入力、ひらがな清音入力

9	【座学】日本語入力の特殊音	拗音・促音・長音（きゃ/しゃ、小さい「っ」、長音）
10	【実技】日本語入力①	タイピング練習、文章入力練習 濁音、半濁音入力、拗音入力、日本語記号入力
11	【座学】日本語入力と記号	日本語で使う記号、長音、句読点、鍵かっこ
12	【実技】日本語文章入力①	タイピング練習、文章入力練習 短文入力、記号を含む文章入力
13	【座学】IMEと日本語変換	漢字変換、カタカナ変換、IMEパッド
14	【実技】日本語文章能力②	タイピング練習、文章入力練習 漢字変換練習、カタカナ変換、文節変換
15	【座学】日本語入力と数字	数字入力、数字変換、テンキー

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パソコン演習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	パソコン演習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	2	60
使用教材	留学生のためのかんたんWord/Excel/PowerPoint 留学生のためのタイピング練習ワークブック			出版社	技術評論社 カットシステム

科目の基礎情報②

授業のねらい	日本語のタイピング及び、Word/Excel/PowerPointをビジネスシーンで使いこなすための技術を習得する。				
到達目標	日本語能力検定N5レベルの日本語の文章を300字／10分のスピードで入力することができる。 基本的な表計算やグラフ、プレゼンテーション資料を作成することができる。				
評価基準	テスト60％ 課題提出/平常点40％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	パソコン技能検定 3 級				
関連科目	パソコン演習Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小山 公彦			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	【実技】授業概要とExcelの基本	授業のねらい、到達目標、評価方法／Excelの画面構成／セル・行・列の概念／表計算ソフトの役割
2	【座学】Excel基本操作	データ入力／セル操作／簡単な表作成／保存方法／タイピング練習
3	【実技】表計算の仕組み	数式の基本／演算子／相対参照と絶対参照の理解
4	【座学】表計算演習①	数式を使った計算／合計計算／表計算練習／タイピング練習
5	【実技】関数の基本	関数とは／SUM・AVERAGE・MAX・MINの仕組み
6	【座学】関数演習①	合計・平均計算／関数入力練習／表作成練習
7	【実技】条件分岐関数	IF関数・IFS関数／条件分岐の考え方
8	【座学】関数演習②	IF関数を使った表作成／条件分岐の演習

9	【実技】グラフの基本	グラフの種類／円グラフ・棒グラフの特徴／用途
10	【座学】グラフ作成①	円グラフ作成／グラフの位置調整／デザイン変更
11	【実技】グラフの構成	タイトル／軸／凡例などグラフ構成要素の理解
12	【座学】グラフ作成②	棒グラフ作成／表示変更／グラフ編集
13	【実技】ビジネスで使う表計算	売上表／勤務表／集計表など業務での活用
14	【座学】表計算演習②	売上表作成／グラフ作成演習
15	【実技】Excel総復習	数式・関数・グラフの復習／テスト説明

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ビジネススキルⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネススキルⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	1	30
使用教材	日本語能力試験N3完全攻略テキスト&実践問題集 新完全マスター漢字 日本語能力試験N3			出版社	ナツメ社 スリーエーネットワーク

科目の基礎情報②

授業のねらい	日本語の言語知識を中心に学習し、ビジネス場面で必要となる基本的な日本語表現の理解を深める。		
到達目標	基本的なビジネス場面において、指示・依頼・報告に必要な日本語表現を理解できる。 JLPT N3レベルの文法・語彙・漢字について意味と使い方を理解している。		
評価基準	テスト：40％　小テスト：30％　授業態度：30％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	日本語能力試験N3		
関連科目	ビジネススキルⅡ・ビジネスライセンス対策Ⅰ・Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	石川 恵美子	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 実力判定模試	授業の目的・JLPT N3の構成を理解する 言語知識分野の模試を実施し、実力を確認する
2	漢字の読み方①	JLPT N3級によく出る漢字約360個の内、50個を覚える
3	漢字の読み方②	JLPT N3級によく出る漢字約360個の内、100個を覚える
4	漢字の読み方③	JLPT N3級によく出る漢字約360個の内、150個を覚える
5	漢字の書き方	JLPT N3級によく出る漢字約360個の内、200個を覚える
6	漢字テスト	今まで授業で習った漢字の小テストを受ける
7	文脈理解①	文脈によって意味が規定される言葉を正しく学ぶ
8	文脈理解②	文脈によって意味が規定される言葉を正しく学ぶ

9	言い換え①	日本語の意味が近い言葉に言い換えることを学ぶ
10	言い換え②	日本語の意味が近い言葉に言い換えることを学ぶ
11	文法①	表現文型・否定形・否定の選択型を学ぶ
12	文法②	接続する言葉・助詞を学ぶ
13	文法小テスト	覚えた文法の小テストを受ける
14	文章の文法①	短い文章を読んで意味を理解する
15	まとめテスト	JPLT N3級の過去問にて実力を確認する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ビジネススキルⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネススキルⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	1	30
使用教材	日本語能力試験N3完全攻略テキスト&実践問題集 新完全マスター漢字 日本語能力試験N3			出版社	ナツメ社 スリーエーネットワーク

科目の基礎情報②

授業のねらい	日本語の言語知識を中心に学習し、ビジネス場面で必要となる基本的な日本語表現の理解を深める。		
到達目標	基本的なビジネス場面において、指示・依頼・報告に必要な日本語表現を理解できる。 JLPT N3レベルの文法・語彙・漢字について意味と使い方を理解している。		
評価基準	テスト：40％　小テスト：30％　授業態度：30％		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	日本語能力試験N3		
関連科目	ビジネススキルⅠ・ビジネスライセンス対策Ⅰ・Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	石川 恵美子	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 実力判定模試	授業の目的・JLPT N3の構成を理解する 言語知識分野の模試を実施し、実力を確認する
2	漢字の読み方①	JLPT N3級によく出る漢字約360個の内、50個を覚える
3	漢字の読み方②	JLPT N3級によく出る漢字約360個の内、100個を覚える
4	漢字の読み方③	JLPT N3級によく出る漢字約360個の内、150個を覚える
5	漢字の書き方	JLPT N3級によく出る漢字約360個の内、200個を覚える
6	漢字テスト	今まで授業で習った漢字の小テストを受ける
7	文脈理解①	文脈によって意味が規定される言葉を正しく学ぶ
8	文脈理解②	文脈によって意味が規定される言葉を正しく学ぶ

9	言い換え①	日本語の意味が近い言葉に言い換えることを学ぶ
10	言い換え②	日本語の意味が近い言葉に言い換えることを学ぶ
11	文法①	表現文型・否定形・否定の選択型を学ぶ
12	文法②	接続する言葉・助詞を学ぶ
13	文法小テスト	覚えた文法の小テストを受ける
14	文章の文法①	短い文章を読んで意味を理解する
15	まとめテスト	JPLT N3級の過去問にて実力を確認する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ビジネスライセンス対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネスライセンス対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	2	30
使用教材	いろどり 初級2			出版社	独立行政法人国際交流基金日本語国際センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	場面に応じて適切に日本語を使う運用力を養い、実際の生活・職場場面での判断力・応用力を強化する。				
到達目標	日常生活や職場場面の会話を聞いて、状況・意図・必要な行動を判断できる。 場面に応じて適切な表現を選択・使用できる。				
評価基準	テスト：40％ 小テスト：30％ 授業態度：30％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	JFT basic				
関連科目	ビジネスライセンス対策Ⅱ・サービスマネジメントⅠ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山下 智子			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的・進め方・授業内ルールの説明、JFT basicの試験概要を学ぶ
2	第1課「先週、日本に来たばかりです」	自己紹介や自分の周りの人を紹介する時の会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
3	第2課「まじめそうな人ですね」	自己紹介や自分の周りの人を紹介する時の会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
4	小テスト①	第1課から第2課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する
5	第3課「アレルギーがあるので、食べられないです」	レストランの場で使われる時の会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
6	第4課「しょうゆをつけないで食べてください」	レストランの場で使われる時の会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
7	小テスト②	第3課から第4課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する
8	第5課「早く予約したほうがいいですよ」	旅行に関わる会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する

9	第6課「いろいろなところに行けて、よかったです」	旅行に関わる会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
10	小テスト③	第5課から第6課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する
11	第7課「雨が降ったら、ホールでやります」	地域のイベントに関わる会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
12	第8課「屋台はどこかわかりますか」	地域のイベントに関わる会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
13	小テスト④	第7課から第8課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する
14	第9課「成人の日は、何をするんですか」	年中行事に関わる会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
15	まとめテスト	第1課から第9課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ビジネスライセンス対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	ビジネスライセンス対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	2	30
使用教材	いろどり 初級2			出版社	独立行政法人国際交流基金日本語国際センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	場面に応じて適切に日本語を使う運用力を養い、実際の生活・職場場面での判断力・応用力を強化する。				
到達目標	日常生活や職場場面の会話を聞いて、状況・意図・必要な行動を判断できる。 場面に応じて適切な表現を選択・使用できる。				
評価基準	テスト：40％ 小テスト：30％ 授業態度：30％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	JFT basic				
関連科目	ビジネスライセンス対策Ⅰ・サービスマネジメントⅠ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山下 智子			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的・進め方・授業内ルールの説明、JFT basicの試験概要を学ぶ
2	第10課「どんな服を着ていけばいいですか？」	年中行事に関わる会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
3	第11課「ポイントカードを忘れてしまいました」	買い物に関する場面で必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
4	小テスト①	第10課から第11課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する
5	第12課「この掃除機は軽くて動かしやすいですよ」	買い物に関する場面で必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
6	第13課「いろいろな資料を展示してあります」	様々なサービスを利用する際に必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
7	小テスト②	第12課から第13課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する
8	第14課「前髪はもう少し短く切ってもらえますか」	様々なサービスを利用する際に必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する

9	第15課「会議室の電気がついたままでした」	職場環境・自然災害の際に必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
10	小テスト③	第14課から第15課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する
11	第16課「地震が来ても、慌てて動かないでください」	職場環境・自然災害の際に必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
12	第17課「日本語が前より話せるようになりました」	自分のことを話す時に必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
13	小テスト④	第16課から第17課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する
14	第18課「将来、自分の会社を作ろうと思います」	自分のことを話す時に必要な会話を理解する 提示された漢字・文法を理解する
15	まとめテスト	第10課から第18課までの漢字・文法・会話について自身の理解度を把握する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	キャリアデザインⅠ		
必修選択	必修	(学則表記)	キャリアデザインⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	2	30
使用教材	外国人留学生のための就職活動テキスト 第2版		出版社	インプレス 一般社団法人 日本フードサービス協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	就職活動における課題を発見し、今後の課題や授業への取り組み方を深めていく。 すぐに就職活動が出来る状態(身だしなみ・履歴書・面接・意欲等)になっている。		
到達目標	就職活動の準備や働くことに対する意識を醸成する。 現場をイメージできる実習への準備をする。		
評価基準	発表25% 提出物25% 授業態度25% テスト25%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	なし		
関連科目	キャリアデザインⅡ・ホスピタリティーサービスⅠ・施設衛生管理Ⅰ・Ⅱ・サービスマネジメントⅠ・Ⅱ ホテルマネジメントⅠ・Ⅱ・ビジネスライセンス対策Ⅰ・Ⅱ・パソコン演習Ⅰ・Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	森 依子	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業のオリエンテーション・自己紹介・ビザの種類について
2	特定技能試験の種類	特定技能試験について調べる。調べたことを日本語で発表する
3	メモの取り方	書いてある文章、説明を聞いたことをメモの取り方を勉強する
4	数字の書き方練習	数字を正しく書く練習をする
5	アルファベットの書き方練習	アルファベットを正しく書く練習をする
6	税金と保険	留学生・就労ビザで関係する税金と保険について学ぶ
7	小テスト	授業の目的、数字、アルファベット、税金と保険までの理解度を確認する

8	就職活動の流れ①	就職活動の第一歩、入社までの流れ
9		
10	就職活動の流れ②	日本企業のビジネス文化
11		
12	就職活動の流れ③	就労関係の在留資格
13	就職活動の流れ④	採用方式、就職活動スケジュール
14		
15	まとめ	振り返り、後期の目標設定

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	キャリアデザインⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	キャリアデザインⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	2	30
使用教材	外国人留学生のための就職活動テキスト 第2版		出版社	インプレス 一般社団法人 日本フードサービス協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	就職活動における課題を発見し、今後の課題や授業への取り組み方を深めていく。 すぐに就職活動が出来る状態(身だしなみ・履歴書・面接・意欲等)になっている。		
到達目標	就職活動の準備や働くことに対しての意識を醸成する。 現場をイメージできる実習への準備をする。		
評価基準	授業態度:30% 履歴書の完成度・レポートの作成等：70%		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者		
関連資格	なし		
関連科目	キャリアデザインⅠ・ホスピタリティーサービスⅠ・施設衛生管理Ⅰ・Ⅱ・サービスマネジメントⅠ・Ⅱ ホテルマネジメントⅠ・Ⅱ・ビジネスライセンス対策Ⅰ・Ⅱ・パソコン演習Ⅰ・Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	森 依子	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	仕事の探し方①	求人情報の探し方、募集要項の見方
2		
3	仕事の探し方②	選考に必要な書類、提出する書類
4		
5	仕事の探し方③	履歴書の書き方
6		
7	仕事の探し方④	履歴書の書き方（実践）
8		

9	業界研究・企業研究①	業界研究の方法
10		
11		
12	業界研究・企業研究②	企業研究の方法
13		
14		
15	まとめ	振り返り、進級後の目標設定

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	1	15
使用教材	7つの習慣Ⅰテキスト 夢のスケッチブック (WEBアプリ)			出版社	FCEエデュケーション

科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分を身につける。				
到達目標	7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	足利 松雄			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	「未来デザインプログラム」とは何か学ぶ 夢のスケッチブックの使い方を学ぶ
2	SANKOワークコンピテンス	SANKOワークコンピテンスの理解を深める
3	7つの習慣とは？	7つの習慣とは何か学ぶ 夢のスケッチブックを使って日誌を書くことの意味を学ぶ
4	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの意味について学ぶ
5	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解する 自分自身との約束を守る大切さを学ぶ
6	刺激と反応	「刺激と反応」の考え方を理解する 主体的に判断・行動していくことの大切さを学ぶ
7	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
8	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にすることの大切さを学ぶ

9	選んだ道と選ばなかった道	自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ
10	人生のビジョン	入学時に考えた「卒業後の姿」をより具体的に考え、イメージする
11	大切なことは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」には、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ 自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	前期授業内容（私的成功）の振り返りを行う
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	未来デザインプログラムⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年次	学科	国際ビジネス科	1	15
使用教材	7つの習慣Ⅰテキスト 夢のスケッチブック（WEBアプリ）			出版社	FCEエデュケーション

科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分の身に付ける。				
到達目標	7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	足利 松雄			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
2	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
3	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
4	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
5	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、「理解してから理解される」という考え方があるということを学ぶ
6	相乗効果を発揮する	人と違いがあることに価値があることを学ぶ
7	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
8	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続であり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ

9	人生ビジョンを見直そう	将来のなりたい姿を描き、同時にその生活の実現にはお金が必要であることを学ぶ 現実的なライフプランの大切さを理解する
10	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高める
11	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
12	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
13	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
14	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラムで学んだことを復習（知識確認）する
15	2年生に向けて	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える